

## 昭和 100 年三大出来事 in 賀露 第 1 回 鳥取市との合併

令和 7 年は、「昭和が始まってから 100 年」という節目の年にあたります。

そこで今月号から 3 回にわたり、この 100 年間に賀露で起きた三つの大きな出来事を振り返ります。

第 1 回は「鳥取市との合併」です。

昭和 12 (1937) 年、全国的な「昭和の大合併」の流れの中で、鳥取市と賀露村は合併しました。

この合併には、面白いエピソードがあります。

当時の鳥取市は産業基盤があまり強くなく、賀露村の農業や漁業、造船業など活発な経済活動に加え、鳥取港を海運の拠点として活用できることや、砂丘地の開発、畜産など、多くの可能性を秘めた賀露村の併合を強く望んでいました。一方の賀露村も、道路整備や小学校の増改築、港の整備などを望んでいました。

しかし合併条件を決めるとなると、どちらも損をしないようにと慎重になり、話は簡単には進みません。当時、合併の仲介役を務めた鳥取県のある職員は、こう振り返っています。

「双方とも相当色気はあるのに、声をかけた方が損だとばかりに、お互い自重して頑張り合っている。こうした駆け引きは、まるで青春の胸躍る男女の気持ちにも似ている。この『恋愛』、ぜひまとめてやりたいと思ったのです」

職員は、相思相愛でとんとん拍子に話が進むと思っていたようですが、現実はその簡単ではありませんでした。合併の話が 9 割方進んだところで、賀露村の岸本村長が異議を唱えました。

「鳥取市にはちっとも誠意がない。全村民が憤慨しています。賀露村は従前どおり賀露村としてやっていきます」

驚いたのは鳥取市です。市の担当者は「合併には駆け引きがつきものですが、これほど大がかりな芝居は知りません。何しろ村全体が打った芝居ですから」と回想しています。

しかし単なる芝居ではありませんでした。漁業の水揚げ量は一段と増え、農業は養蚕や養鶏、砂丘地農業などの副業も本業と変わらないほど盛んになり、賀露の価値を高めたのです。

合併の評価はさておき、賀露町が一丸となって経済発展に向かっていったのは、確かな歴史です。

歴史が刻んできた結束の力を礎として、町全体で心を寄せ合い、これからも歩み続けていきたいものです。



賀露村役場

【参考】昭和和 12 年 3 月鳥取県公報

鳥取市への編入後の町名は、「賀露町（カロマチ）」でした。

# 鳥取縣公報

第 八 百 五 號

昭和十二年三月二日

火 曜 日

## 告 示

◇鳥取縣告示第二百二十二號

鳥取市町名ヲ左ノ通新設ノ件本日許可セリ

昭和十二年三月二日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

昭和十二年二月十五日鳥取市ニ編入シタル元氣高郡賀露村ノ區域ノ町名ヲ「賀露町」トス

◇鳥取縣告示第二百二十三號

鳥取市町名及大字名ヲ左ノ通改稱ノ件本日許可セリ

昭和十二年三月二日

鳥取縣知事

立

田

清

辰

鳥取縣公報 毎週日發行（休日ニ當ル）第 八 百 五 號  
火 曜 日（時ハ翌日）昭和十二年三月二日

（昭和四年四月十五日）  
（第三種郵便物認可）